

連節バスを活用した「高度化バスシステム」について

1 趣旨

平成 27 年に策定した「横浜市都心臨海部再生マスタープラン」では、地域全体の回遊性を高めるため、まちの賑わいづくりに寄与する新たな交通を導入することとしています。

中でも、MICE 施設の整備や客船受入れ機能の強化等が進められている水際線沿いでは移動需要の増大が想定されており、交通機関の早期導入による回遊性の確保が求められています。

これらを踏まえ、平成 32 (2020) 年までに連節バスを活用した「高度化バスシステム」を導入することとし、検討を進めてきましたので、ご報告します。

2 連節バスを活用した「高度化バスシステム」の概要

(1) 基本コンセプト

都心臨海部全体の回遊性を高め、市民だけでなく、観光客などの来街者にとっても、わかりやすく、使いやすく、快適に回遊できるバスシステム

表 1 基本コンセプトの具体化に向けた視点と取組内容

| 視点 | 取組内容※ |
|--------|---|
| わかりやすさ | まちのシンボルとなり、初めて訪れる人でもルートが明確 認識しやすい車両、明確なルート案内、案内システムの充実 |
| 使いやすさ | 駅や主要な観光施設等を結ぶルート設定・スムーズな乗降や乗継により回遊性を向上 最適なルート設定、スムーズな乗降、利用しやすい乗車券、乗継しやすい環境、観光案内の充実 |
| 快適さ | 利用者が移動する際に快適に過ごせ、乗ること自体を楽しめる環境の整備 快適な車両、バス待ち空間の充実、定時性の確保 |

※ 取組内容については、技術開発の動向などを踏まえ、段階的に検討を進めます。

(2) 実施体制

走行環境の改善やバスターミナルの改良などのインフラ整備は都市整備局・道路局・港湾局が行い、運行や停留所、車内情報案内等の整備は交通局がバス事業の一環として行います。

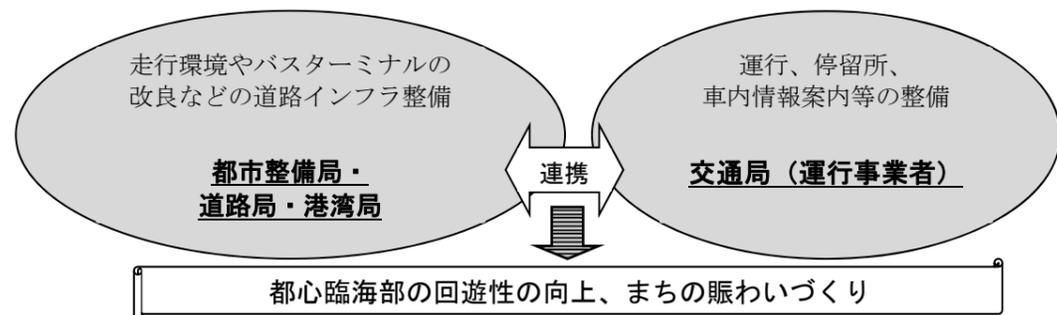


図 1 事業推進の考え方

3 「高度化バスシステム」の事業計画

(1) 平成 32 (2020) 年時点での導入ルート

横浜駅東口を起点とし、水際線沿いを中心に来街者が利用する主要な施設を結び山下ふ頭を終点とするルートとします。

停留所の詳細な位置等については、今後関係者との調整を進めて確定します。

なお、導入時には、同エリアを運行する既存バス路線を再編し、最適なバスネットワークを構築します。

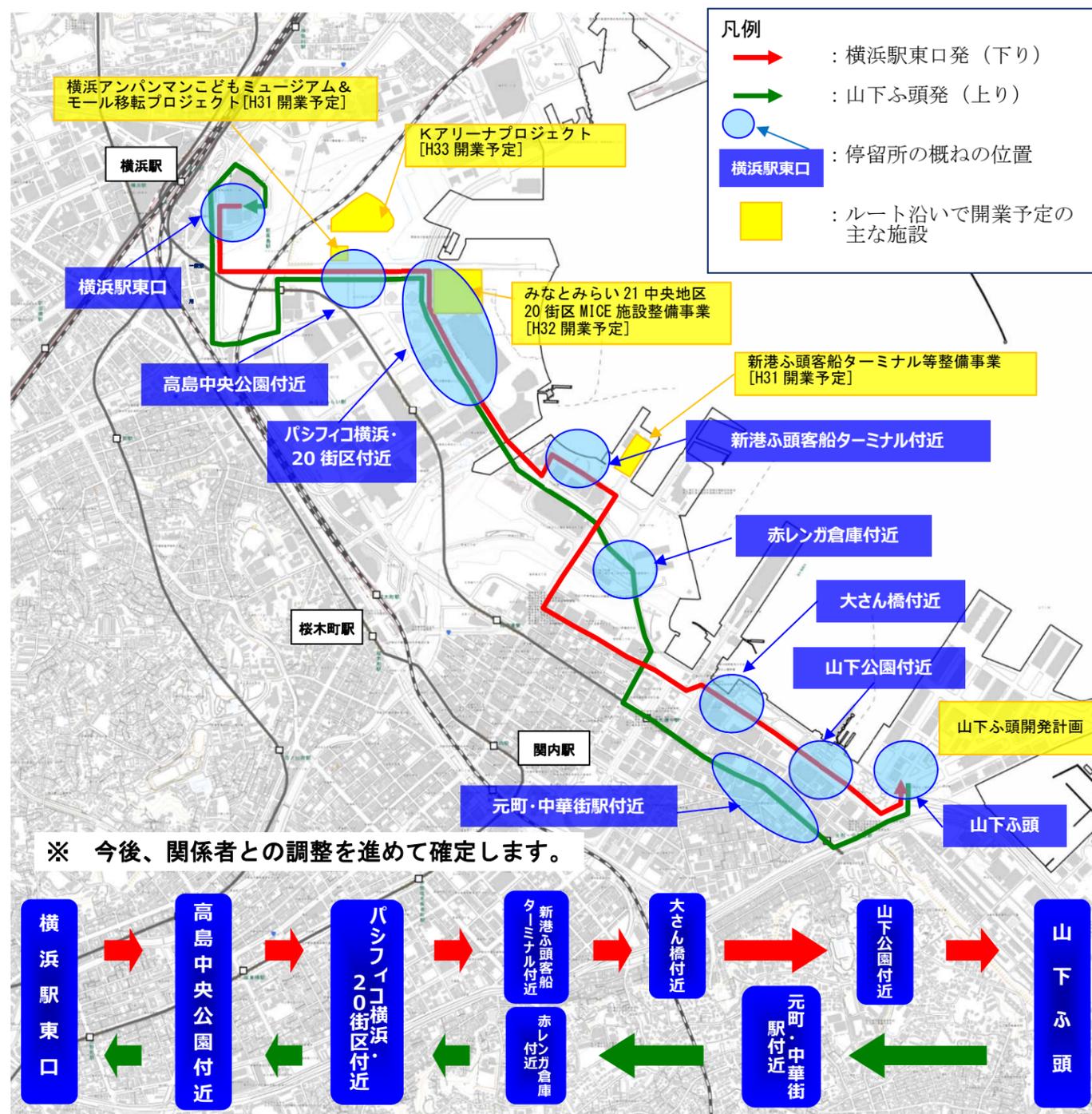


図 2 平成 32 (2020) 年時点での導入ルート

(2) 運行時間帯・運行本数

ア 運行時間帯

都心臨海部での需要が大きいと想定される、概ね10時台から19時台までとします。

イ 運行頻度

平成32(2020)年の導入時には連節バス4台で1時間あたり2~3本とし、導入後の利用状況やまちづくりの状況を踏まえ、見直しをしていきます。また、繁忙期・多客時は一般車を組み合わせたダイヤとするなど、利便性の確保を検討します。

(3) デザイン・名称

ア デザインの基本的な考え方

横浜のシンボリックな色である青に水面のきらめきを表現する光沢を持たせた「マットメタリックブルー」を用い、景観にアクセントとなり路線バスと差別化できる単色づかいのバスとします。また、利用者からの視認性を高めるために車体にシンボルマークを配置します。

イ 名称

水際線沿いを疾走する青い連節バスをイメージさせる「**BAYSIDE BLUE**」とします。

ウ シンボルマーク

移動する「2つの車体(連節バス)」をダイナミックな「2つの波」に見立ててシンボルマークとし、広がりのある空と海をイメージさせるブルーのバスに施します。



図3 シンボルマーク



表2 連節バス車両の主な諸元

| | |
|-------|------------|
| 定員 | 120~130名程度 |
| 座席 | 50席程度 |
| 全長 | 18.0m程度 |
| 全高 | 3.2m程度 |
| 全幅 | 2.5m程度 |
| 車両総重量 | 25.0t程度 |



図4 車両デザインのイメージ

エ 停留所等のデザイン

停留所等のデザインについては、車両や施設等について一つのコンセプトに基づいたデザインとし、統一感を持たせることで、明示性や魅力等を高める「トータルデザイン」の手法を活用し、連節バス車両と合うデザインとすることを念頭に検討を進めます。

(4) その他の機能



交通拠点サイネージ



バスロケーションシステム



車内乗換案内

※写真はイメージです

出典：新潟市 BRT 第1期導入事業概要（新潟市）

4 事業スケジュール

平成30年度に車両調達や詳細設計等を行い、平成31年度は整備工事等を実施し、平成32(2020)年6月頃に運行を開始する予定です。また、運行開始に向けて周知・PRを図ります。

表3 事業スケジュール

| 年度 | 平成30(2018)年度 | 平成31(2019)年度 | 平成32(2020)年度 |
|-------------------------------|--------------|--------------|-------------------|
| 車両調達 | 車両導入 | 車両架装・試走 | ★運行開始 (6月頃を予定) |
| 道路/交通拠点のインフラ整備 | 詳細設計 | 整備工事 | |
| 停留所整備 | デザイン検討 | 整備工事 | |
| 車両整備機器等 | 改修工事 | 洗車機改修 | |
| 運行情報システム整備 (バスロケーションシステム等) | 基本・詳細設計 | 整備工事 | |

5 その他

昨年度に実施した「まちを楽しむ多彩な交通の充実」に向けた提案募集の中で、「高度化バスシステムの広告付きバス停留所上屋」の提案がありましたので、これを受け、実現の可能性を適切に見極めながら、公民連携による取組を進めます。



高度化バスシステムのバスストップ

広告付きバス停留所上屋の例